

國學院大學學術情報リポジトリ

報告

「國學院大學の3つの慮いと教養教育のあゆみ」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 季夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002094

【報告3】

國學院大學の3つの慮いと教養教育のあゆみ

加藤 季夫氏（國學院大學 副学長・教育開発推進機構長）

（司会） それでは、最後の報告となります。國學院大學副学長・教育開発推進機構長・人間開発学部教授の加藤季夫先生よりご報告いただきます。加藤先生、宜しくお願いいたします。

それでは、最後ということで、パワポの画面にあるように、「國學院大學の3つの慮いと教養教育のあゆみ」ということで、教養教育に対してどのように建学の精神を織り込んできたかという報告をさせていただきたいかと思えます。

先程、学長のほうからもお話がありましたので、重複するかとは思いますが、本学の概要ということについて少し話をさせていただきます【スライド2】。

創立は1882年、皇典講究所をそのスタートとしております。初代総裁は有栖川宮熈仁親王、初代の所長は山田顕義先生で、山田先生は日本大学の学祖にあたります。そういった面で、本学と日本大学とは姉妹校で、面白い関係にあります。今年も理事の改選が行われますが、その時には國學院と日本大学の理事が集まって、色々なひそひそ話をするということが行われますが、内容はわかりません。

その後、1890年に「國學院」が出来、1920年に大学に昇格しました。現在、学部は文・法・経・神道文化学部・人間開発学部の5学部ですが、神道を学ぶ大学というのは日本に2つしかありません。本学以外

としては三重県の伊勢にある皇學館大学で、國學院大學と皇學館大学で神職を養成している。ですから、この二つの大学で、日本の神社界を二つに分けているということになります。

学生数は約1万人で、大正大学さんが約5000、関西学院さんが2万ということですから、大正大学さんの2倍、関西学院大学さんの2分の1と、少し面白い数値になっております。

専任の教員数は240名ですが、学生数からすると日本の私立大学で40位前後の、どちらかという大規模大学であるということになります。普段は特にそういう意識はないのですが、どうもそうみたいです。

今日、皆さん本学にいらして判りますように、これが正門で【スライド3】、やけにいろんな樹木が生えていると思ったかもしれませんが、入っていただくと神殿があります。神社じゃありません、神殿です。数年前に、國學院大學の神殿が「パワースポットだ」ということで、國學院に関係の無い人が神殿の前に群れていて、一体何だろうと思ったことがあります。原因は、「明治神宮と並ぶ都内のパワースポットだ」と

いうことで来ていたみたいです。神殿の反対側に学生食堂があるんですが、その讃岐うどんが非常においしいということで、パワースポットで力をもらったうえで讃岐うどんを食べて帰るというツアーが成立したようですが、現在はブームも収まり、また、神殿らしい雰囲気になっています。

次に、國學院大學の建学の精神ということについても説明させていただきますと【スライド4】、これも最初に学長のほうから話がありましたけれども、本学は「神道精神に基づき人格を陶冶し」と言っております。「人格の陶冶」というのは様々な大学に出て来そうなキーワードですが、それでは「神道精神」って一体何なの、という話になります。一応、色んな意見がありますけれども、國學院大學ではこういうふうに解釈しています。「日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さ」——つまり、神道自体が多神教だということです。これは、神道を生んだ日本の国土が、非常に自然豊かで、その中で様々な神様がいるということの意味しており、解釈の仕方としては、多様性を認め共存して行く考えが神道だということです。

私は専門が生物学なものですから、生物学的な見方をすると、所謂「多様性」というのが一つのキーワードになります。生物の世界では、多様性あってこそ色々な生物が共存できる、逆に多様性を失って行くと絶滅の道を歩むというのが大原則で、恐らく人間もそうだと思います。そういった意味で、國學院の「神道精神」というのは、生物界を流れている大原則に合った考えだとも言えると思います。

私は別の大学から来たのですが、その

時「國學院大學に移るよ」と言ったら、周りから「大丈夫なの？」ということ was 言われました。どうも周りは、國學院というと「……」の世界だと（会場笑）思っていたらしいのですが、入ってみますと、これほど自由な大学はありません。恐らく、神道精神の「寛容性」ということだと思います。刑法に引っかけなければ何をやってもいいというですね、そういう大学が國學院だということで、つつい居着いてしまい、いつの間にか副学長・機構長をやらされているという状況になってしまいました。

さて、先程、松坂先生から詳しい話はしていただいておりますけれども、本学も大きな影響を受けた高等教育の状況の変化ということについて、ポイントだけ出しておきたいと思います。

1991年の大綱化が、やはり教養教育の一つのターニングポイントになりました【スライド5】。それ以前は、一般教育科目3分野、外国語、保健体育ということで48単位、そして専門が76単位ということで——これは1956年に大学設置基準で必修と決められたようですが——それですずっとやってきたのですが、当然ながら世の中は変わって来るわけでした、一番大きかったのが、進学者の急増、それから多様な要望ということが一つのキーになります。結果として、一般教育の授業は、大人数であり、一方的であり、そして高校レベルの内容ということで、学生のほうからも「パンキョー」などと言われて、あまり重要視されなかった、と。

私も1970年代に大学の授業を受けたわけですが、記憶に残っている一般教養の授業はひとつ、それは化学の授業です。どういっ

た意味で記憶に残っているかと言うと、その先生が、なんでこんな授業をするんだと思うのですが、八丈島に行ったら石組みの間にマムシが一杯いたとか、あるいは、谷川岳に登ったときに、どうしても帰らなきゃいけなくなって、ひとりで下山していると、前を人が歩いていて、霧の中なのでその人の後について行けば大丈夫だろうと思ってついて行って、ふと気付いてみれば崖だったという——そういう話しか覚えていないんですね（会場笑）。

そんな一般教育を受けていれば学生の間から不満が出るのも、軽視されるのも当たり前です。一言で言えば、やはり、担当教員の怠慢以外の何ものでもないとは私は考えております。私も國學院大學の生物関係の一般教養をやって来たわけですが、一番大人数授業は、1100名の受講生がいて、座る席がないので、階段に紙を敷いて座らせました。しかし、やりようによっては1100名の受講生があっても授業は成立するものですね。成立させるためには、やはり教員が必死になってやっているということを見せなければいけないのです。ひとつ心掛けたことは、なるべく新しい情報を授業で提供するという事です。一般教養で批判されることのひとつには、「もう10年も同じ内容でやっている」というようなことがあります。教員のほうも、一所懸命授業をやっているのだという姿勢を見せることが必要です。

学生に対して、私語等をきつく注意することも大切です。学生に一番ウケたのは、小型の塩ビ製のラジコンヘリコプターを持ち込んで、寝ている学生の頭の上に飛ばしてぶつけるという（会場笑）、そういう

ことをやりまして、学生の方も時折寝たふりをしてヘリコプターをキャッチするという、それで授業が盛り上がったこともあります。要は、やり方次第なのですね。残念ながら、多くの教員はそういう所をやらなかった。それが、一般教養の批判に繋がってきたということです。

大学設置基準の大綱化によって、一般教育と専門教育の科目の区分がなくなり、大学がどういう学生を育てたいかということに基づいて、カリキュラムの編成が可能になりました【スライド6】。ところが、結果として起こったことは教養部の解体、一般教育の縮小ということで、まあそうなるのは目に見えていたのですが、当時関係した人々に言わせると「いや、意図したところはそうではないのだ」ということだそうですね。意図とは別に、どういう結果になるかということを考えないでやると、様々な問題が後々起こるのだということですね。

それでは、國學院はどうしたということですが、國學院は教養教育を縮小しませんでした【スライド7】。國學院独自に「教養総合カリキュラム」というのを策定して、こういうコンセプトで——世界に開かれた日本文化の創造と形成に総合的に寄与し、日本文化を世界に向けて発信できる有用な人材を育成するために、教養総合カリキュラムをつくりました。世の中の多くの大学の流れとは、ちょっと違う動きをしたということなのです。

これは、そのときの履修要項の一部ですが【スライド8】、外国語とスポーツ身体文化、主題講座です。主題講座は、テーマI～VIまでありますが、テーマIで、所謂

神道の科目を必修にしております。やはり本学は神道の大学でもありますので、これはきっちり教えよう、ということで入れています。

2008年には有名な中教審答申が出て、「21世紀型市民にふさわしい」教育をなさいということになった【スライド9】。「学士力」なるものが必要ということで、知識・理解ですとか、コミュニケーション能力、態度、あるいは総合的な学習経験と創造的思考力というかたちで、大学全体を「学士課程」と捉えて、その中で各大学が独自の道を歩みなさいということだと、そのように解釈して進めて行きました。

それを受けて、私が教務部長の時に、これからの大学教育あるいは教養教育にとって何が必要かというのを考えて——一応これは教授会で参考資料として出した図なのですが【スライド10】——「人として生きるための知識・技能」を身につけるのが、國學院大學の教養総合だ、ということで、「人として生きる」というキーワードを掲げました。それに関連する幾つかの科目群と、それからどういった能力が得られるか、それが多様な社会への適応力に——これはグローバル化に関係するのですが——、あと専門科目にも繋がって行くのだと。こういう教養教育をしようと考えたわけです。

「人として」というのはどういうことか。人と猿とは何処が違うのか。たまたま人類学の授業をやっていますので、その授業のテストで「チンパンジーと赤井学長との違いについて述べよ」という問題を出したのですね（会場笑）。答えは、「直立2足歩行するかどうか」なのですが、なかなか面白い答えが出て来まして——後で怒られるか

も知れませんが、僕が書いたのではないのと言いますけれども、「赤井学長はチンパンジーほど毛深くはないが、あまり差は無いと思う」という（会場笑）記述もありました。さすがにこれは点数は与えられないと思ってその部分は零点にしておきました。

それはさておき、実際のところ、人とチンパンジーで何が違うのかというと、これが結構難しい。目は二つある、鼻はひとつある、手足が4本ある。一番の違いは、ここです——「利他的行動が取れるかどうか」。これが、人間と他の動物との違いなのです。

人間以外の全ての動物は、利己的行動しか取りません。利己的行動というのはどういうことかということ、自分の遺伝子を未来に残すためにプラスになる行動が利己的行動ということになります。利他的行動は、自分の遺伝子を未来に残すためにプラスにならない、関係しない行動を取るのが利他的行動で、代表的なものとしてボランティア活動がある。ボランティア活動をするのは人間だけで、他の動物には見られません。

そういった意味で、國學院大學も3年前から、東日本大震災の被災地に、大正大学さんのお世話もあって、「私大ネット36」という組織の幹事校として学生を被災地に送って、がれきの撤去や農業林業水産業の支援を行っています。私もその責任者となって一緒に行っていますが、ボランティア活動を学生にさせると、本当に意識も変わって来ますし、顔つきも変わって来るといった面白い現象が起こって来ます。そういった点で、これからの大学生に対しては、やはり一度は、ボランティア活動はやらせ

てみたほうが良いということもあって、教育開発推進機構の中で、今年からボランティアステーションという専門の部署を立ち上げました。

もう一つ、利他的行動の例で皆さんに判りやすいこととしては、例えば身寄りの無い子供を引き取って育てるということも利他的行動です。朝ドラで結構視聴率が高い、『マッサン』の世界で、エマさんという養女を育てているというのも、あれも人間にしか出来ない行動だというふうに考えていただいて結構かと思えます。

最近になって出て来た、非常に面白いデータがあります。——2014年にカリフォルニア大学の社会心理の先生から発表されたもので、「金持ちになるほど、他人に対して意地悪になる、利己的になる」というのです。大韓航空の副社長の事件がありました。あのナッツ事件も、なるほど、人間は金持ちになるとろくでもないということが非常によくわかります。そういったことを、どこかでしっかり教育しなければいけない。それが、やはり大学の教養教育の役割のひとつだろうと、私は勝手に解釈しております。

2010年に、日本学術会議から面白い提言が出て来ました【スライド11】。あまり表に出てこないの、いい機会ですからここでご紹介したいと思います。やはり、グローバル化する情報知識社会および大学教育の大衆化と、生涯学習社会の展開、およびそれを支える「知の創造」の基盤となる教養についての提言ということで、非常に面白い内容です。ネットで読めますので、興味のある方は是非ともお読みいただければ、色々な意味で参考になるかと思えます。

國學院大學では、法人の方で「21世紀研究教育計画」として【スライド12】——これは一番新しいもので、2012年策定の第3次のものですが——その中で、國學院のミッションとして3つが挙げられています。それが「3つの慮い」です。すなわち「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」ということで、今大学としてやらなければいけないことが、この「3つの慮い」の中に込められています。非常に素晴らしい計画で、いかにこれを実現して行くかということになるかと思えます。

さて、現在の國學院大學の教養教育は、それではどのようにやっているかということですが、今年からグローバル化その他をもう一度見据えて教養教育の目標を三つ決めました。私が教務部長の時に、「人として生きる」ということで、ある程度大きな枠を作ったのです。現在の教務部長は地球科学の方でして、生物学と地球科学ですから、理系の人間が連続して教務部長を勤めるという、文系の大学では珍しいこととなりましたが、きっちりやろうということで、現在はこうなっています【スライド13】。

すなわち、日本の伝統と文化を理解し説明できる、日本語をちゃんと操れるのだと。さらに当然、日本の中で全てが終わるわけではありませぬので、外国の文化をしっかりと理解していかないとやって行けませんよと。そして、色々な視点から物事は捉えられるんだと。最後に、多様性を認め、他者を理解する。これは神道精神そのものだという事です。

これは履修要項から取っていますけれども、科目区分として基礎科目群・人間総合科目群・留学生科目・単位認定科目と分け

てあり、基礎科目の中に神道科目、國學院科目、日本語科目という形で、建学の精神に関わる科目をしっかりと入れ込んであります。

まず、神道科目ですが、自校史に関するサブテキストと、神道に関係する教科書ということで【スライド14】、このような共通教材を使って、必修で2単位、一応1学年2600人くらいです。その学生に、うちの大学が神道を建学の理念としているんだという授業を行っています。

次に、國學院科目というのを設けて、一応4つにグルーピングしております。「日本の基層文化」「國學院の学問」「心・技・体」「ことばの文化」で、神道とか民俗学関係のもの、國學院の歴史と、渋谷学・共存学などもここにあります。「心・技・体」では、雅楽・茶道・礼法。あと将棋も27年度から開設予定ですし、「ことばの文化」では書道、あるいは和歌について学ぶということで、かなり國學院らしさを教養総合の中に入れて込んでいます。

これは今年の授業風景ですけれども【スライド15】、こういうかたちで、学生が雅楽の練習あるいは書道を行っています。やはり、こういった國學院科目を展開するためには場所が必要だということで、50人規模の和室を用意しようということになり、もう工事は始まっていますので、来年度からは、こういったものは和室で行うことが決まっています。

更に、教養演習という科目があります【スライド16】。アクティブ・ラーニング系のもは、学生との接点も近いですし、学生達があるテーマを捉えて自分たちで調べ、発表し、ディスカッションをするという、

非常に学生を育てる上では重要な授業ですので、今後充実させて行こうと考えております。このスライドでは、今日の司会進行役の中山准教授が授業をしている写真をお見せしております。

ここで、少し見方を変えて、高等教育の役割とは何なのかということを考えてみたいと思います。

二人の方、一人は西南学院大学学長のG.W.バークレー先生、それからもう一人は、残念ながら亡くなってしまいましたけれども、国際教養大学前学長の中嶋嶺雄先生の仰っていることに注目しました【スライド17】。特に中嶋先生は、英語能力がどうしても必要だと。そして、教養と批判力、クリティカル・シンキングを身につけなければダメだと。それをさせるのが大学だと。更に、日本人としてのアイデンティティの大切さということで、素晴らしい考えをお持ちだと思います。

ここでの「クリティカル・シンキング」とは何かということですが【スライド18】、つまり根拠に基づいて、しっかりと思考回路をめぐらせて、正しいと思われる結論を導き出す、そういう思考過程がクリティカル・シンキングだということになります。

実は、生物学の立場からすると、動物には5つの行動がある。人間もそうです。その中の、知能行動に関係した部位が脳前頭葉——おでこの裏の部分の働きが、社会的知性と密接に関係しているということが言われております。

具体的な例を一つ挙げます【スライド19】。何でこんなのが出て来たのかと思われるかも知れませんが、テレビの、特に

深夜番組BSはこういうものばかりですよ。これは「すっぽんコラーゲン」という商品の広告で、通販でNO.1だと宣伝しており、結構売り上げを伸ばしています。一体どうしてこんなのが売れるのか、ということですね。

一番大きいのは、テレビ局がどんどん宣伝するからです。こういったコラーゲン食品関係の経費、製造経費は、大体2割程度です。残りの8割が利益になり、全体の売り上げの半分は放送局が持って行きます。放送局にとってはおいしい商売なわけですね。ですから、どんどん宣伝して売ろうという、まあテレビ業界もあくどい業界ですから、そういうことをやっています。

しかもこういう類のものは、必ずどこかにアスタリスクで「個人の見解です」という注記が、小さく、判らないように表示されています。皆さん方も、そういう言葉があったら、これは効果がないものだと思って下さい。

それで、どうしてこれがクリティカル・シンキングに関係してくるかといいますと、そもそも「コラーゲンとは何なのか」ということです。これはタンパク質なんです。アミノ酸が繋がったタンパク質を飲んだらどうなるか。胃液のペプシン、膵液のトリプシンで、アミノ酸に分解されてしまいますから、全く意味がありません。そういうことは、中学校の理科で習ったことをある程度理解していれば、これは意味がないんだということがわかるはずなんです。実は、コラーゲンとほぼ同じものがゼラチンですから、「すっぽんコラーゲン」を食べるよりは、美味しいゼラチンケーキでも食べた方がよっぽどいいと思います。この

類はそういうものばかりです。

ですから、「コラーゲンって何なの」「飲んだら、食べたらどうなるの」ということを、しっかり論理立てて考えて行くことが出来ていれば、こういう商売は成り立たないはずなのですが、残念ながら日本人は、そういうことが出来る方は少ないのですね。

横浜市の市内大学との共同事業である大学都市パートナーシップ協議会で、今年の1月15日にシンポジウムがありました【スライド20】。その時の基調講演をして下さった、日産自動車の志賀俊之副会長さんの話の中で非常に素晴らしいことが述べられていました。さすが世界を股に掛けた企業人だと思いました。

まず、グローバル化の中での人材育成において何が重要かは、『共感力』。これがキーワードです。『共感力』というのは、やはり相手の立場に立ってものごとを考える、あるいはお互いに自分の考えをまとめてディスカッションする。そうすることで、『共感力』がわいてくるのだと言います。『共感力』のない学生は、企業に入ってもやって行けない、グローバル人材にはなれないのだということを明確に言い切っておられました。

また、たまたま昨日の帰りに渋谷駅の売店で東京新聞を買ったのですが、そこに、大谷大学の鷺田清一先生が書いておられました。鷺田先生は何が必要かという、やはり、これから生きて行く人たちは『共感力』が必要だと。『共感力』をつけるためには、やはり、自らに距離を取る。客観的な自分を見ることが出来る。そして、他者のもとに心を向けさせる。そういった

ことが出来るようになることが、これからの21世紀の日本を生きて行く能力だとおっしゃってしまっていて、ああ今日のテーマに合うなということで、紹介させていただきます。

次に、ここで出しましたものは「國學院大學の教育戦略」ですが、私が勝手に作ったものです【スライド21】。教務部長が了承しているわけでもありません。建学の精神に則り、日本語の運用能力が高い、日本の文化・日本の歴史に造詣が深い、外国語を苦手としない、クリティカル・シンキングができる、そういった人材を育てて行こう。そのためには、アクティブ・ラーニング系の授業の充実も必要ですし、最終的に大学が生き延びて行くためには、やはり卒業生の満足感が必要だと。そのためにはやはり、学生達が、この大学に入って良かった、成長したと実感できるような授業の提供が必要だということです。

最後になりますが、やはり、松坂先生が仰っていましたように、日本の大学生は学修時間が少ない。たまたま佛教大学の先生に講演に来ていただいたとき、京都の大学の中でどこが一番評判いいんですかと訊くと、立命館大学が一番という話でした。なぜ立命館がいいんですか、と訊くと、京都

の大学の中では、立命館大学の学生が一番よく勉強しているとのこと。そのように勉強させると、やはり社会的評価は高くなると思います。それが、社会的知性を持った学生の増加に繋がって行くのだと思います。

明日以降、皆さん方が自分の大学に行かれた時に、ひとつやってみると良いと思うことがあります。大学の正門近くの交差点で、赤信号の時にどれだけ学生が無視して渡るか、それを見てください。しっかりした大学、評判の高い大学ほど、赤信号を渡りません。赤信号を平気で渡る学生は、徹底的に鍛えないとだめだということです(会場笑)。データが溜まってきましたらどこかでレポートしようと考えています。——「赤信号と大学の質」という題名で(会場笑)。

大学にとっては、いかに学生達を育てていくかということが生命線になりますので、最初に言いましたけれども、皆さん方の大学が生き延びて行くために、より良い学生を育てて行けるひとつのヒントになればということで、今日お話をさせていただきました。どうもありがとうございました。(拍手)

●●● 平成26年度 教育開発シンポジウム

國學院大學の3つの虚いと
教養教育のあゆみ

副学長・教育開発推進機構長
加藤季夫

1

●●● 國學院大學の概要

- 1882年: 皇典講究所創立
- 1890年: 皇典講究所を母体に國學院設立
- 1920年: 「大学令」による大学昇格
[現在]
- 学部: 文学部、法学部、経済学部
神道文化学部、人間開発学部
- 学生数: 約1万人
- 専任教員数: 約240名

2

●●● キャンパス内にある神殿



3

●●● 國學院大學の「建学の精神」

○「國學院大學学則」第1条
本学は神道精神に基づき人柄を陶冶、
諸学の理論並びに応用を攻究教授し、有
用な人材を育成することを目的とする。

⇒
「神道精神」(日本人としての主体性を保持
した寛容性と謙虚さ)に基づき、教育と研究
を行う。

4

●●● 1991年の大綱化前の教養・
共通教育のカリキュラム編成



上記、専門教育科目単位は標準編成と見く
(Guideline September 2007, A10)

5

●●● 大学設置基準の大綱化

一般教育と専門教育の科目の区分
を廃止し、大学独自の理念の基づく
カリキュラム編成を可能にした

⇒
多くの大学で、一般教育を担っていた
教養部の解体が進行

6

●●● 國學院大學の対応

1995年「教養総合カリキュラム」が策定
⇒
世界に開かれた日本文化の創造と形成
に総合的に寄与し、日本文化を世界に向
けて発信できる有用な人材を育成するた
め、従来からの教養と専門との枠を取り払
い、「総合化」を目指した。

7

●●● 教養総合科目の構成

科目		履修方法 (1年単位未満)
大講	外国語Ⅰ・Ⅱ	講義科目・必修科目 12単位必修
	スポーツ・身体文化Ⅰ	2単位必修
総合科目	総合演習Ⅰ	テーマⅠ 2講義科目 4単位必修
	総合演習Ⅱ	テーマⅡ・テーマⅢ (テーマⅢ講義科目) 4単位必修
	総合演習Ⅲ	講義
応用科目	外国語Ⅲ・Ⅳ	講義
	スポーツ・身体文化Ⅱ	4単位必修

8

● ● ● 高等教育の本来の役目とは

- 好奇心にあふれ、自立的かつ論理的な思考を持つ人材の育成
(西南学院大学学長 G. W. パーク)
- 英語のコミュニケーション能力を持ち、さらに幅広く教養と批判力(クリティカル・シンキング)を身につけた人材の輩出………
さらに日本人としてのアイデンティティを…
(国際教養大学前学長 中嶋雄雄)

17

● ● ● クリティカル・シンキング(1)

- 適切な根拠(事実・理論等)を基にして、
妥当な推論経路を経て、結論・判断を導き出す思考過程
⇒ 知能行動(動物の5つの行動の1つ)
⇒ 社会的知性(大脳前頭葉の働き)に密接に関係している

18

● ● ● クリティカル・シンキング(2)

19

● ● ● グローバル人材として必須の条件『共感力』

「グローバル人材育成において期待する大学の役割」

日産自動車株式会社 代表取締役 副会長 志賀 俊之 氏

プロフィール

1963年、兵庫県生まれ。大阪府立大学の経済学部、1991年、日産自動車入社。企画部長、アライアンス経営部長を経て、2003年専務、2005年取締役執行責任者(CEO)、2013年副会長に就任。



20

● ● ● 國學院大学の教育戦略

- 勉学の精神に則り、日本語の運用能力が高い、日本文化・日本の歴史に造詣が深い、外国語を苦手としない、クリティカル・シンキングができる
- アクティブ・ラーニング系授業の拡大
- 成長を実感できる授業の提供⇒大学への満足度の向上⇒帰属意識の向上
- 学修させる大学⇒社会的知性を持った学生の増加⇒社会的評価の向上

21